

すみだタウンミーティング 議事録

テーマ	産業振興を通したまちづくり
日時	令和元年12月12日（木）午後7時～8時35分
会場	すみだ産業会館 9階 1・2会議室
参加者	36名

<内 容>

※ 開始30分程度はすみだタウンミーティングの趣旨・「（仮称）墨田区産業観光マスタープラン～中間のまとめ～」についての説明及び参加者をグループに分けた意見交換を行った。

区民A 12月2日から8日まで、テレビの番組で災害の特番が組まれていた。燃えやすい墨田区が一番問題になるのが初期消火だと思っている。そこで、火元に投げ入れるだけで初期消火ができる消火剤があるのをご存知か。実際に火事があったときに消火器を使用するのは難しい。これは火に向かって投げるだけで消化ができるので、私は何かあるたびに近所に配っている。初期消火で火災をくい止めるということで皆さんにも（意見交換の際に）見ていただいた。

区長 安全・安心という意味で、町の基盤がしっかりしていないといい仕事ができない。今のお話は区にとって基本中の基本と思っている。初期消火も含めて火事の対策は重要。特に北部の木造密集地域ではひとたび火事が起きると、糸魚川の火災のようにまち全体に燃え広がるのではとされている。また、木造密集地域は古い建物も多いので家屋の倒壊もあり、燃えない・壊れないまちづくりをしていかないといけない。さらには風の対策や台風19号。今回は多くの皆さんに大変心配をおかけした。私はずっと荒川の水位を監視していたが、避難勧告の基準となる水位までは上がらなかった。一方で上流では430mmという大雨が降っていたので、これが下流に来た時の不安はあった。結果的に墨田区は浸水や洪水被害はなかったが、しっかり対応していかなければいけないし、早めの避難を決断するようにしていきたい。近年は災害の数や種類が増え、気候の変化が厳しくなっている。産業界の皆さんが基礎基盤となる防災対策についても力を入れながら、安全・安心で仕事ができる環境を整えていくというのも大事だと思う。防災についても改めて詳しくお聞きしたい。

区民B シティプロモーションということで区長が力を入れていることは大変良いこと。国際観光という点でいうと2020年が最大の宣伝の機会なので抜かりなくやっていただきたい。

話は変わるが、北海道の土地が10数%を中国人に買われたという話を聞いた。墨田区においても、レガシーというか遺産が外国の人を買われてしまう可能性がある。区営というと財政を圧迫するのであまり良くないというが、流出をくい止めるために、負債を発行してでも守っていくべきだ。

区長 国際文化観光都市ということで、おかげさまで東京スカイツリーができて7年、北斎美術館も

すでに75万人を超えるお客様が3年でご来館いただいた。まちを見渡すと、外国人のお客様が大変多く、区役所の近くでもスカイツリーに向かって歩く外国人観光客をよく見かける。また、民泊に関する法律ができ始める等、外国人に対して門戸を広げるような状況の中で、いかに外国人の方々にルールを守ってもらい、まちの繁栄につなげていくことや、外国人の方にもすみだは良いまちだと思ってもらえるようなまちづくりを考えていかないといけない。

墨田区はただの国際観光都市だけではなく、文化の香りのする街だということも考えていかなければいなくて、葛飾北斎が2020年で生誕260歳という節目、さらにオリンピック、パラリンピックという節目、そしてそれに合わせて、隅田公園と北十間川の観光回遊路を来年春ごろに開通する。さらに両国の方でもリバーゲートということで、船着き場を中心に多くのお客様をお迎えできるように整備していく。両国はオリンピックのボクシング会場ということで2020年に向けてどう準備をしていくか。ボクシングの競技はもちろんだが、聖火リレー、パラリンピックの聖火リレーも墨田区内を走るの障害をお持ちの方にも配慮をした施策を考えていきたい。そういったチャンスの年なので、「2020年のすみだ」をしっかりと作り上げていきたい。オリンピック、パラリンピックを盛り上げるために、パブリックビューイングなどを設置して、皆さんと盛り上げていきたい。

区が直営で墨田区の土地などに投資をして、守るべきものを守ったらどうかというお話があった。買う・買わないというよりはそこをどのように有効活用するか。例えば子育て世代の人がそこに集まるような公園をつくるなど、土地をうまく使っていくというのは大事だと思っている。今年度から、公園に自動販売機の設置を始めた。今までは公園にそういったものは置けなかったが、暑い中水分をとりづらいいということで、条例を改正して置いてみようというチャレンジをやっているところである。また、公園周辺を一つの「パーク」と捉えて、公園を中心にマネジメントしていくということもやっている。隅田公園と東武の高架下を整備していて、来年の3月にはきれいにリニューアルする予定である。そういったところをパークマネジメントということで管理をしてもらいながら、それを情報発信していくということは、墨田区の魅力の一つであり、チャレンジするという気持ちも含めて公有地の有効活用を図っていきたい。

区民C 「つながる」というのが墨田区のシティプロモーションのキーワードである。他区では水害の際に区外へ逃げろと言っているが、前は東北だったり九州だったり、つながりが田舎にあったと思うが今はそういうのがないと感じる。そういうつながりを防災の面でも重視して「何かあったら俺のところに来いよ」みたいな関係性ができるといいと思う。

また、私のいるところのオーナーが、1960年代くらいからの墨田区の生活のありとあらゆるものを保管している。こういった庶民生活の博物館みたいなものも墨田区の価値だと思う。こういったものとスカイツリーを訪れる観光客をつないで区内を周遊できるようにするのではないかな。

区長 私も58年墨田区に生まれ育って、自分でもすみだは良いなと実感しているところだが、今お話のあった人のつながり、例えば今日お集りの皆さんと「墨田区を良くしていこう」というのも一期一会の出会いである。その中で皆さんから聞いた意見を行政で受け止めて対応していくという

つながりと、まちへ出て、町会で頑張っている方や地域活動として頑張っている方等、人のつながりの良さというのはまさに墨田区の良さだと感じる。そういう墨田区のいいところを、昔の時代の写真だったり、その時代の暮らしぶりだったり、今の時代の人たちと見て昔の良さを思い浮かべながら今のすみだを作っていくというのはとても大事だと思う。

一方で、現在27万5千人まで人口が増えてきたが、その8割近くは共同住宅に住んでいる。1年で3千人くらいずつ人口が増えていっているが、統計をみると、20代の独身の会社員が多く住んでいる。アクセスの良さが居住のきっかけになっている。また、子育て世代も増えている。こういった人たちを交えて、どんなまちをつかっていくのかも大事なポイントになってくるのではと思っている。人のつながりがすみだの良さというのを理解してもらって町会に加入してもらい、お祭りや有事の際のご協力をお願いできるよう、努力していく必要がある。この視点は他の区ではなかなかない視点だと思っている。また、産業界の皆さんにも、普段は仕事をしているけれども、いざというときは自分たちも参画するというような姿勢を共有できればと思っている。

区民D 墨田区は「三ちゃん企業」といって父ちゃん、母ちゃん、お兄ちゃんという人たちが中小企業というよりも零細企業として集まっていたから良いまちだと思っている。先ほどデータで事業所の減少を見たがひどいものであった。私も会社を経営しているが、利子補給をしているような状況である。こういった零細企業を支援するような施策をお願いしたい。

また、私のような企業でも取引先の企業に相手をしてもらっているのは、跡取りがいるからと言ってくれる相手方もいる。後継者の育成についても何か対策をしていただけると、産業観光の振興にもつながると思うのでよろしくをお願いしたい。

区長 墨田区のまちの歴史というのはまさに中小零細企業が作っていった部分もあると思っている。そういった歴史を持った零細企業の皆さんを支援していかなければいけない。先ほど2020年から先の墨田区というお話もあったが、今まで歴史を残してきた企業をどうやって事業継続をして墨田区で事業や工場を営んでいけるかも合わせて考えていかなければいけない。

後継者については、仕事をされている方の息子さん／娘さんが、「自分の家を継ぐ」というのが一番理想的ではあるが、時代の変化もあり会社員を目指すということもある。会社の歴史はそれぞれの企業でしっかり作っていただき、そこに行政として経営面では利子補給の制度を充実させ、事業承継という部分もスキーム化して、皆さんにうまく利活用してもらおうようにしていきたい。ご自身が引退する前に早めに家族を交えて事業承継の相談をし、行政のサポートを受けてもらえればと思う。区役所でいうとビジネスサポートセンター、商工会議所にも独自の事業承継のサポートを行っている。また、金融機関のほうでも相談に乗っていただいていると聞いている。ぜひビジネスサポートセンターに来ていただき、細かい話や事業承継を含め会社経営のことについてご相談いただきたい。

区民E 産業観光から少し外れるが、事前の説明で部長がお話ししていたように、高齢化社会が進んでいる中で私が思うのは、南北の格差。区の北部は公の施設やコミュニティ、例えば体操教室やイベントなどがたくさんあるが、南部はあまりない。若い人であれば車や自転車等で簡単に移動

できるが、高齢者では難しい。私自身も介護関係の仕事に携わっているが、現場からはそういった話をよく聞く。このあたりの取り組みについてお話を聞きたい。

区長 墨田区は土地面積が13.77km²で23区全体では下から6番目、人口も下から6・7番目となっている。もともと昭和22年に向島区と本所区が合併して今の墨田区となっている。合併前に戦争があり、北部は無事であったが南部は空襲の被害があった。そういった中で南部は耐震化率でも80%を超えている一方北部では58%程度となっており、南北の差ができています。高齢化率では北部のほうが高く、南部では低くなっています。こういった背景をしっかりと見据えながら、高齢者への対策をしっかりとやっていき、墨田区で生き生きと過ごしてもらえるようにしていきたい。

南部で高齢者が集える場所ということで、これは議会の質問でも取り上げられるが、北も南も分け隔てなく集まれる場所、例えば産業会館のサンライズホールで介護予防の体操をするといったメニューを用意するなどソフト面での充実をしていきたい。今は区が直営で施設をつくるというのは時代的に難しく、今ある施設を有効活用したり、講師を派遣したりして皆さんにお使いいただくような形でやっていきたいと考えている。一方で、基本計画の中で南北分け隔てなく整備するとうたっている施設についてはしっかりと整備をしていく。

区民F 墨田区は戦前から産業が盛んで、カネボウや花王、セイコーなど大きな企業の工場があった。それが区外へ転出したのにつられて、協力工場や下請けの工場がなくなったのが大きいと思っている。大きな工場の跡地がその後どう活用されているかということ、団地になっているところは町として発展しないが、商業施設となっているところは人が集まりお金が回っている。私は小さいころ神田に住んでいたことがあり、当時は小さい工場があったが、今は居酒屋が貸しビルになっている。それを真似してほしいわけではないが、浅草やスカイツリーに人が来るようになってるので、住宅だけでなく人が来てお金を落としてくれるような運用をしてほしい。

また、墨田区の伝統産業である繊維や金属加工、革加工についても守ってほしい気持ちがある。

今後墨田区がどんなまちになってほしいのか区長のお話を聞きたい。

区長 すみだの歴史をまとめていただき、ご意見いただいた。高い技術力で精密部品やガラス、皮製品など、現在でも高い品質で周りからの高評価をいただいているのは、昔の時代があったからだと思う。墨田区の産業観光マスタープランの中で改めてすみだのものづくりの良さ、技術の高さ、伝統工芸といったものについてはもう一度ブラッシュアップをして、世にもう一度打ち出していくということはとても大事な要素だと考えている。一方で、前に話していただいた方のように、会社の継承が難しいといった会社もある。そこを事業承継という形でしっかりと支えていくというのも大事だと思っている。

また、大きな工場などの跡地の活用について、住民にとっても、区にとっても重要な視点だと思う。マンションができれば人口が増えるし、商業施設ができれば人の賑わいを創出できる。そういったバランスや、墨田区が考えている夢、構想などに企業や共同住宅の事業者が興味を持ってもらって参画してもらおうというのが大事だと思っている。すみだに来てもらい、この土地に定着しても

らえるように努力していきたい。

区ではスミファというまちの工場巡りを実施したが、とても多くの方に来ていただいた。町工場の職人さんたちが、自分の持っている技術やものづくりの面白さを親切に説明し、「すみだのものづくりに興味を持ってほしい」というプレゼンを行っていた。参加者からは大好評で「墨田区って良いですね」というお声もいただいた。来ていただくとわかるすみだの良さというのを皆さんと一緒に情報発信していき、一緒になってすみだを作っていこうという仲間を増やしていくことが大事だと思っている。

また、産業と観光の融合という面で、スカイツリーに行くだけでなく、町工場を一つ一つ巡っていくだけでも楽しい観光になるということで情報発信していきたい。

区民G 私は伝統工芸品の製作を行っている。今、仕事で区外や都外からの修学旅行生の製作体験を引き受けている。これは、引き受けることでお金をいただけるということと、伝統工芸に興味を持っている子どもたちが将来のお客さんになる可能性もあるので、早い段階でそういった人たちと触れ合えることが今後のメリットになるのではと思っている。現在はインターネットで簡単に情報を収集できるが、量が多く裏をとる作業が大変な中、子どもたちに直接製作者の想いや文化、商品、職人の価値を伝えられるのは大きいと思っている。

こういった取り組みを修学旅行や観光だけでなく、教育として区内の子どもたちに対してもできないか。自身も小学生の子どもがいるが、区内の子どもたちを巻き込むことで、墨田区の伝統工芸やものづくりの文化といった区の強みを教育として子どもたちに伝えられるのは、区に対する誇りを醸成する意味でも大きいのではないか。

区長が先ほどおっしゃっていたスミファや大江戸すみだ職人展などで親子連れのお客さんと接する機会があるが、受動的になってしまう。イベント情報を親や子どもが見ても、ほかに用事が入っていると来てくれないので、ぜひ教育の場面で取り入れてほしい。

区長 ご自身が受け継いだ伝統工芸を、子どもたちに広めていきたいと思っていただいているのはすみだのいいところだと改めて思う。

教育という点で、いかに子どもたちにすみだのものづくりや伝統工芸と触れ合う機会があるか、何かの機会でちゃんと話を聞く機会があって、1クラスのうちの1人2人でも、興味を持ってもらって将来の仕事の選択肢として思ってもらえるような環境を用意するのは我々の役目だなと思う。

今教育の面で力を入れているのはオリンピック、パラリンピック関連で、各学校にオリンピックやパラリンピアンが訪れ、アスリートの想いや経験をお話していただいている。そして、オリンピック、パラリンピックの度に「うちの学校には〇〇さんがきた」という話を一生の財産になればと思う。また、税に関する教育も力を入れており、税の大切さを訴えるはがきや作文で全国表彰を受ける子どもたちが続出している。教育の大切さが形になっている例だと思う。墨田区の売りである伝統工芸やものづくりを子どもたちに伝えていくというのは、産業観光部署と教育委員会と連携をとってやっていきたいと思う。

また、小学生だけでなく、高校生、大学生にも同じよう感じてほしいと思っている。来年4月か

ら情報経営イノベーション専門職大学というICT系の大学ができるが、彼らは墨田区をフィールドにしてインターンシップや実際に企業に入って行って現場を学ぶということをやっている。皆さんぜひ手を挙げていただき、学生たちに墨田区の伝統工芸やものづくりの良さを見てもらいながら墨田区のことを情報発信して行ってほしい。その次の年には千葉大学の建築デザインスクールというのができる。建築やデザインに特化した学生たちがやってくるので、そういう人たちが墨田区の伝統工芸やものづくりを学んだり、逆に学生さんたちからヒントをもらったりといった連携を組んでいくことも大事だと思っている。

小学生から大学生まで広げたが、教育を通じてすみだの良さを伝えていくというのは大事な視点だと考えている。

区長総括 今日改めて皆さんにお伝えしたいのは、墨田区は相当な可能性を持っているということ。まだ住んでいる我々も気づいていないことや、外部から「すみだのここが良い」と言っていることもある。そういった部分を一人一人が信じて、まちづくりや産業振興に参画していただき、オールすみだでまちを盛り上げていきたいと思っている。

可能性というと、工場が減ってきたというのはマイナスなイメージだが、元気なところを持ち上げていくことや、宇宙規模のプロジェクトを見据えながら、すみだの技術力はそういったところにも通じていくという夢のある企画を2020年の中でお示しできればと思っている。

隅田公園の観光回遊路もそういうことのために使うスペースとして活用していきたい。ぜひとんでもないアイデアでも結構なので私たちに聞かせていただき、それをやることで町が明るくなったり、人がにぎわったりという事業を私たちはチャレンジしていきたいと考えている。

また、外国人や他県の人が出てきて良いなと思うのは、例えば盆踊りがある。墨田区役所のうらおい広場で行っている盆踊りには多くの人に来ていただいているが、特に外国人が多い。外国人がこのようなナイトイベントを楽しむという光景をよく見かける。さらには下町の銭湯文化も魅力的で、例えば下町の床屋で髪を切って、盆踊りに行って、そして銭湯に行って、赤ちやうちんの居酒屋で一杯やってお休みになる。こういった我々にとっては日常の生活でも、外国人にとっては観光資源になる。他にも、普段住んでいると分からないが、外国人等からすると魅力的なすみだの良さを皆さんからいただいて、そこからアイデアをつなげていきたいと思っている。

ぜひまた改めて開催し、産業観光のまちづくりや防災の話をもう少し掘り下げて、今度は耳の痛い話も含めて皆さんと話し合いをしていきたい。

以上